

平成28年教育委員会第9回臨時会会議録

開会日時 平成28年10月21日 午前 10時00分

閉会日時 同 上 午前 11時35分

場 所 教育委員会室

出席委員 教育長 塩澤 雄一
同職務代理者 日高 芳一
委 員 杉浦 容子
委 員 塚本 亨
委 員 天宮 久嘉
委 員 大里 豊子

議場出席委員

・教育次長	坂井 保義	・学校教育担当部長	平沢 安正
・庶務課長	杉立 敏也	・学校施設課長	青木 克史
・学校施設整備担当課長	長南 幸紀	・学務課長	鈴木 雄祐
・指導室長	中川 久亨	・統括指導主事	加藤 憲司
・統括指導主事	塩尻 浩	・地域教育課長	山崎 淳
・生涯学習課長	小曾根 豊	・生涯スポーツ課長	倉地 儀雄
・中央図書館長	鈴木 誠		

書 記

・企画係長 富澤 章文

開会宣言 教育長 塩澤 雄一 午前 10時00分 開会を宣する。

署名委員 教育長 塩澤 雄一 委員 日高 芳一 委員 杉浦 容子
以上の委員3名を指定する。

議事日程 別紙のとおり開会時刻10時00分

○教育長 おはようございます。

出席委員が定足数に達しておりますので、平成 28 年教育委員会第 9 回臨時会を開催いたします。

本日の会議録の署名は、私に加え、日高委員と杉浦委員にお願いしたいと思います。

それでは、議事に入ります。

本日、議案はございません。報告事項等 8 件、その他 3 件ということでございます。

それでは報告事項等に入りたいと思います。

まず初めに、「平成 27 年度葛飾区各会計歳入歳出決算の審査について（第 4 分科会）」の報告をお願いいたします。

庶務課長。

○庶務課長 それでは、報告事項等の 1 でございます。「平成 27 年度葛飾区各会計歳入歳出決算の審査について（第 4 分科会）」、私のほうから説明をさせていただきます。

まず、資料を 1 枚をおめくりください。第 4 分科会各会派の意見でございます。まず初めに、自由民主党議員団でございます。教育費については、おおむね適正に執行されていると認めます。中学生の職場体験につきましては、多様でかつ実践的な体験ができるような改善。それから学校トイレの改良工事については、環境改善を進めるような要望をいただいております。次に日光林間学園については、竣工 25 年を経て老朽化も目立つことから、改修にあわせて宿泊室への冷房設置を強く求める意見。それから図書館については、デジタル化ですとか、各地域の特色を生かした図書館運営を進めることの要望。RUNフェスタについては、さらなる発展を期待するとの意見をいただいたところでございます。

次に、葛飾区議会公明党の意見でございます。中学生海外派遣では、事前学習の充実を図り、継続的な交流を望みますということでございます。またがん教育の積極的な推進、特別支援教室のさらなる充実を図るため、M I M の効果的活用と、特別支援教室専門員をバックアップする体制の整備を求めるとの意見をいただきました。さらに、学校改築につきましては、着実な推進を望む。また、読書通帳の作成を求めるとの意見をいただいたところでございます。

次に、日本共産党葛飾区議会議員団でございます。奨学金を給付型にすべきであるという意見。それから、特別支援教室については、区講師を増員するなどの対応を求める。就学援助については、基準の緩和を。教育資料館の開館を求めるとの意見をいただきました。また、人工芝については、にいじゅくみらい公園と奥戸陸上競技場でこの黒ゴムチップが使用されているので、ただちに除去するべきであるとの意見をいただきました。

次にページをおめくりください。葛飾区議会民進党議員団でございます。日本語指導員派遣事業経費につきましては、仮称の多文化共生センターの設置による日本語学級の整備を。スクールソーシャルワーカーについては、専門員の拡充を求める。また、英語検定料の助成につい

ては、具体的な策の構築を求められるという意見をいただきました。また、学校支援プロジェクトにつきましては、教員の資質が向上されるように求める意見。次の行では家庭教育支援事業経費につきましては、「早寝・早起き・朝ごはん」カレンダーの改善。図書館の管理運営につきましては、託児サービスの導入。高齢者・障害者スポーツ推進経費については、ボッチャの推進を一層取り組まれるように求めるという意見をいただいたところでございます。

次に、政策葛飾でございます。スクールソーシャルワーカーの質の担保を前提とした上で、さらなる増員とチーム編成を求める。次に、児童相談所が区に移管されますが、それについて連携が可能な環境整備の準備を求める。次に、小学校の特別支援教室の準備については評価をいただきました。今後の中学校への設置、検討を早急に進めよ。それから、下から3行目でございます。東京2020キャンプガイドに記載される東京五輪での練習会場に関して、本区の練習会場としてブラジルが視察されたが、今後選定の有無にかかわらず、この機運を維持していくための工夫と努力を求めるという意見をいただいたところでございます。

次に無所属でございます。3行目でございます。まず、教員から意識改革し、みずからの授業を見直してほしい。チャレンジ検定につきましては、抜本的に見直すように。進路指導に関しては、指導室の統一的な進路指導資料の作成を求めるという意見をいただきました。

次に、引き続き4ページ無所属でございます。学校給食費につきましては、未納額が減少し、準要保護者の給食費についても校長口座に移行するなど適切な対応をしていることは評価をすると。ただ、学校給食費につきましては、文部科学省も公会計制度を推奨しており、本区も導入に向けて検討すべきであるとの意見でございます。また、栄養士について、正規の公務員と非常勤で身分・給与などの待遇が違うので、職務内容や待遇について改めて検証してもらいたい。次に、体育施設の優先利用については、一部の団体が一定期間の土・日を占有することのないように調整していただきたいとの意見をいただいたところでございます。

引き続き無所属でございます。本区の小中学校の不登校の現状は、前年度に比べて1.4倍に増加していることは憂慮すべき事態であるというご意見でございます。不登校対策プロジェクト検討委員会の設置は、不登校に悩む児童・生徒及び保護者にとって欠かせない不登校対策であると確信するとともに、今後の成果に期待するとの意見をいただきました。また、今後もまた学校復帰支援を適応指導教諭2人により試行していることは、児童の教育の向上と推進に大いに役立つものであると期待をしている。また、この訪問型学校復帰支援を小・中学校全校に拡大し、平成28年10月より試行していくこととなり、前向きに取り組む教育委員会の姿勢を高く評価するとの意見をいただいたところでございます。

説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、ただいまの報告について、なにかご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

塚本委員。

○塚本委員 決特で出てきた各会派のご意見ですから、それぞれの立ち位置は十分に理解できます。やはりその中でも無所属の方からある面では前向きな検討課題を、どことあえて申しませんけれども、当委員会としても十分に斟酌すべき点もあろうかと思いますが、ただ全てがそのまま事業展開になるわけではないのですが。とにかく、文教委員会委員の方々の貴重な意見であるという思いをいたしました。

○教育長 ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

杉浦委員。

○杉浦委員 今、塚本委員からもお話ございました。各会派より教育に対し、事業ひとつひとつに評価、継続、推進、改善要望等様々な貴重なご意見をいただきました。このことについては、真摯に受けていかなければならないことだと思います。

不登校対策プロジェクト検討委員会については、無所属の委員から今後の成果に期待するとの意見がございました。期待に応えていかなければと思います。教育委員会としても、検討すべきことは検討し、前向きに、丁寧に取り組んでいくべきだと思います。よろしく願いいたします。

○教育長 ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

天宮委員。

○天宮委員 特に無所属のことにに関してなのですけれども、非常勤職員のことには触れていますが、給与・身分・待遇が違うということですが、これは全国的にいろいろな職業を見ても同じことなので、改善すべきことではあるのでしょうかけれども、現実的には難しいのではないかなというふうに思っております。

○教育長 ありがとうございます。

日高委員。

○日高委員 私は一点、これはお互いに気を付けたほうが良いということがあります。

無所属の議員から、給食費と私費会計で、全国的に問題が発生していますとあります。報道もされていますから、いい機会ですので各学校の私費会計処理については、毅然として説明責任が果たせるように、やはり学校でそういう意識を持つことも大事ではないかと思えます。校長会等でもこのことについては、周知をする必要があると、このように思えます。よろしく願いしたいと思えます。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

ほかはないようですので報告事項1は終了いたします。

それでは次に、報告事項の2「平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について」。

指導室長。

○指導室長 「平成 28 年度全国学力・学習状況調査の実施結果について」ご報告させていただきます。

平成 28 年 4 月 19 日火曜日に行われました、平成 28 年度全国学力・学習状況調査ですけれども、この調査は、平成 25 年度より悉皆調査へと変更になっております。

小学校 6 年生では国語、算数。中学校 3 年生では国語、数学の調査が行われました。また生活習慣や学校環境に関する質問調査も行われました。本調査の内容は、主に知識の定着状況を確認する A 問題と、活用状況を確認する B 問題があり、A は基礎、B は応用と捉えることができます。

実施結果につきましては、1 ページに調査の概要、2 ページに学力調査に関する葛飾区と全国、東京都の平均正答率結果、3 ページに学習状況調査の中の生活調査の抜粋を示させていただきます。

初めに、小学校についてご説明いたします。まず 2、調査結果から。葛飾区と全国との差について申し上げます。昨年度と同じ差である算数 A を除く、全てにおいて昨年度よりも差が縮まり、学力が伸びていることがわかります。

次に各教科の状況についてお話させていただきます。国語 A は全国を上回っております。具体的な結果分析、4 ページと 5 ページに示してございます。漢字の読みについては、高い正答率でした。一方、漢字の書きについての問題や、目的に応じて図と表を関係づけて読み、適切なものを選択する問題については課題が見られました。今後も引き続き言語についての知識理解の定着に向けた取組みが必要であると考えております。続いて国語 B です。全国をやや下回っております。目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだり、自分の考えを書いたりすることに課題がありました。今後、目的に応じて相手の意図は何か。自分の予想との違いは何か。自分の考えの共通点や相違点は何かなどの観点、などの観点として、相手の話を注意深く聞くことができるよう指導する、などの授業改善が必要であると考えております。

算数 A は全国をやや下回っております。数の大小関係や、不等号を理解しているかどうかを見る問題、繰り下がりの減法計算は高い正答率でした。一方、除法の性質に基づいて、小数の計算を行うことや、単位量当たりの大きさの求め方を理解しているかどうか見る問題に課題がありました。今後は除法の性質を確認しながら、丁寧に指導を行ったり、図と式を関連付けて数量関係を捉え、単位量当たりの大きさの求め方を理解できるよう指導したりする必要があると考えております。算数 B は、全国を下回っております。面積を求める問題で、示された条件をもとに、他の正方形について検討したり、同じ決まりが成り立つかを調べる問題について高い正答率でした。一方、除法や図形の性質を用いて判断し、数量が足りていることの原因を、言葉や式を用いて数学的に表現することや、グラフから数値を読み取り、それを根拠に示され

た事柄が正しくない理由を、言葉や数を用いて記述する問題に課題が見られました。今後、課題解決に必要な根拠を明らかにしながら、言葉や数を使って自分の考えを表現する活動を適宜取り入れた指導を行うなどの授業改善が必要であると考えております。

次に中学校についてです。2ページにお戻りください。調査結果から、葛飾区と全国との差を見ると、全てにおいて昨年度よりも差が広がっております。各教科の状況につきましては、7ページと8ページに示してございます。

国語Aは全国を下回っております。登場人物の言動の意味を考え、内容を理解しているか見る問題については高い正答率でした。一方、文章の構成や展開について、自分の考えを持つことができるかどうかを見る問題や、互いの発言を検討して、自分の考えを広げる問題に課題が見られました。今後、辞書の活用についての指導の充実や、文章の構成や展開、表現の特徴を分析的に捉え、その工夫や効果について考えたりする学習活動、目的や意図に応じて書く力を高めるための一層の授業の工夫が必要であると考えております。

続きまして国語Bについてです。全国をやや下回っております。チラシやポスターなど、情報を読み取ることができるかどうかを見る問題は、高い正答率でした。一方、「物語」と「図鑑の説明」から、情報を関連させて内容を理解する問題に課題が見られました。また、本や文章から必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られました。今後は複数の資料から目的に応じ必要な情報を読み取り、自分が伝えたいことを記述したり、交流し合ったりする機会をふやすなどの授業改善が必要であると考えております。

数学Aについてですが、全国を下回っている状況です。正の数と負の数の加法の計算については高い正答率でした。一方、数量関係を文字式にあらわす問題。具体的な場面における数量関係を捉え、比例式を作る問題に課題が見られました。数量関係から反比例になることや、反比例のグラフ上の点の座標から、 x と y の関係式をあらわすことに課題が見られました。改めて、具体的にグラフや図などを活用したり、ICTを利用したりして視覚的に理解できるような指導を工夫しながら、知識・技能の定着を図ってまいります。

数学Bにつきましては、全国を下回っている状況です。与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現する問題に課題が見られました。また、適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する問題に課題が見られました。日常的な授業において、数学的な考え方を用いて記述する授業をふやす必要があると考えております。今後、各学校において結果を分析し、課題に応じたきめ細かい指導を充実させ、知識・技能の確実な定着を図るとともに、「葛飾教師のスタンダード」に基づき、生徒がじっくりと考える時間を確保し、主体的・対話的な学習をとおして、思考力・判断力・表現力のさらなる育成を図ってまいります。

次に生活調査についてです。3ページをご覧ください。

家で学校の授業の予習・復習をしているにおいて、小中学校とも、東京都や昨年度の葛飾区のポイントより上回っております。中学校では一部全国より下回っております。今後も家庭学習のさらなる充実が必要であると考えております。また、「授業のはじめに目標が示されている」「授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っている」において、小学校・中学校ともに東京都を上回っております。特に中学校では、全国そして昨年度の葛飾区を大きく上回っております。「葛飾教師の授業スタンダード」に積極的に取り組んだ成果があらわれていると考えております。小学校・中学校ともに、「学習時間」「読書時間」「規範意識」「自己肯定感」の調査項目は、東京都・全国のポイントを下回っている状況です。

指導室といたしましては、結果のよかった学校の指導方法を分析し、他校に広めるとともに、各学校に対する支援策や、学力向上対策を充実させてまいります。さらに今後の教員の授業力向上に向けた研修内容の改善につなげ、葛飾区の学力を向上させてまいりたいと考えております。

説明は以上です。よろしくお願いたします。

○教育長 それでは、今の説明について、何かご質問、ご意見ありましたらお願いします。いかがでしょうか。

大里委員。

○大里委員 最近改めて感じておりますのが、国語が大切なのではないかということです。教科書を読んで理解できるとか、先生の授業を聞いて理解できるということが、まず基本にあると思います。

先日、中学校の葛飾の教育の日に、道徳公開講座を参観しました。先生が、「じゃあどうしたらいいと思う」と問いかけたところ、手を挙げる生徒がいなかったので、3人ぐらい先生が指したのですね。そうしたらその生徒たちの答えが、「何をどうする」というような単文の答えでした。「何々するといいと思います」等、きちんとした答え方ではありませんでした。中学3年生のクラスでしたので、職場体験にも行っていますので、必要な場ではできているのかなと期待したいところではあります。

やはり自分の考えを相手に伝えるように話せる・書けるというような能力は非常に大切だと思いますので、国語が大切なのだということを改めて感じています。

○教育長 ありがとうございます。

塚本委員。

○塚本委員 大里委員がおっしゃったのですが、やはり国語の重要性は当委員会でも話が出たことですが、各教科のベースになります。やはり今回の学力では、国語と算数・数学の部分で、6年生と中学生が対象となったわけですけれども、やはり全ての教科のベースになるのが国語力であるという。今回の指導室長からのご説明いただいたのですが、特に2ページ、3ペー

ジ、特に3ページの中では、目標のイメージ、あるいは学習の振り返り、その他がある程度の効率、全国を上回った部分が出ていますね。教科によっては全国平均、あるいは都平均より若干乖離があるのですけれども、そのうちの本来2ページに示された部分で、それが整合性が持たれるとされるのかなという感想を持ちました。特に数学、小学校、中学校でも若干マイナス気味に傾いた人もおられるし、質問用紙の3ページの説明事項の中では、どれだけしっかり高揚感があって、自己肯定感もそこそこ出ているのであれば、2ページの数字のほうにも、ぜひそれを整合性をもって反映していただきたい。そういった意味では、授業のスタンダードなり、そういうところでまだまだ、今、大里委員や指導室長もおっしゃったのですが、それぞれの成果のあった部分のノウハウは、当然校長会なりで、我が校の努力の結果はこれだけポイントが上がりましたよというのを、ぜひ開示していただいて、皆で競っていい意味で向上するということは、これからも大事なかなという感想を持ちました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。小学校の国語は、上昇しているんですね。そういう意味で国語はよくなってきているという、いい兆しかなどは思うのですが。

そのほかいかがでしょうか。

杉浦委員。

○杉浦委員 まず数値だけをみますと、ちょっと残念という思いもあります。といたしますのは、今、かつしかっ子スタイル、葛飾スタンダードが定着し、子どもの姿勢、学校の雰囲気は落ち着いてきていると思います。この状況の中で、評価や結果につなげていくには、という思いがあります。

今の中学3年生が、小学生の時にはどうだったのか、指導室できちんと分析してくださっていると思いますので、各学校それぞれ課題が違うと思いますが、課題を分析して、各学校でしっかり取り組んでいけば、上昇していくのではないかという思いでおります。

大里委員もおっしゃいましたが、やはり語彙が少ない。授業の時の先生と生徒とのやりとりの中で、先生がきちんとした言葉を使い、子どもから正しい言葉が返ってこなければ、またそこできちんと示してあげる。失敗は失敗で、その失敗を乗り越えて子どもたち自身で体験して成長していくということが、大事だと思います。

それから、読書。読書の推進は叫ばれ、葛飾区では、0歳からブックスタートとして始まり、よみ聞かせ、朝読書等、読書活動に力を入れてきていると思います。しかし、3ページの読書のところでは、30分以上というのは、中学校は25.7%です。各学校1時間とか、60分×学年とか目標を決めておりますが、それが守られていない。きちんと実行していれば、30分以下などということはある得ないと思います。丁寧な指導が必要だと思います。

葛飾スタンダードが始まり、まだ3年です。今後、5年10年経てば必ず、今、教育委員会

で一生懸命子どもたちに取り組んでいることが、生きてくると信じております。

次に、グループ学習ですが、各小・中学校で行っている学校のほうが成果が上がっているのではないかと思います。子どもたちが自分の意見も言いやすい、相手の意見を聞く、それぞれ対応して意見を述べる。そういったグループ授業ですね。結果を見ても、葛飾区は必要ではないかと思います。個人が、一教科だけがよいというわけではなく、学校全体がよいというのは、やはり何かきちんと努力をなされているところがあり、学校全体の総合力になっていると思いますので、その辺ご指導よろしく願いいたします。

○教育長 グループ学習を入れている学校の成果はどうなっていますか。

指導室長。

○指導室長 学年によって少し差があるところはあるのですが、やはり活発に取り組んでいる、主体的な活動をやっているところは、子どもたちの回答も、ほかの部分については高いです。また学力のほうについても、今回成果が出ているかということ、まだそこまではいっていないのですが、全体的には上昇傾向というふうに言えると考えております。

○教育長 伸びているのですね。

日高委員。

○日高委員 とてもいい分析をしていただいたので、各学校がこれを読んで、現実に実施してもらおうということが大事であろうと思います。

うれしいことは、小学校はすごく伸びているのです。ですから、可能性はあると思うのです。やはり継続は力なりで、何を焦点化して、充実させるかということは大事だと思いますので、授業をしっかりとやってもらいたいですね。そのことが大事ではないか思います。

そして中学については、やはり残念です。でもこれだけの分析では、中学は何やっているのだというそれだけで何も生まれません。これまでも実施していますから、この学年がどうだったかという追跡をされておくと、やはり小学校から大事なのだという、そういった結果も出るかもしれません。ですから、そういった分析もしていただくと、各学校に勇気を与えられるかもしれません。そんなことを感じました。

それから、私は葛飾区の教師の授業スタイル、それから学習スタイル、スタンダードですね。この成果というのは、貴重だと思います。ただし、学校を何校か回っておりますが、学校で温度差があるのです。お飾りの掲示物になっているようなものもありますね。ただ張られているだけに過ぎない。それでは実践力は全くつかないのです。ですから、今週は、今月ほど、ここを中心的にやろうというような、視点を重点化したようなそういった取り組みをやっていくと、もっと変わってくるのではないかと。そういった学校はきっといい成果を出しているのではないかと思います。

まとめることがどういった意味を持つのか、目当てを与えることが何を意味するのかという

ことを、教師自身がやはり明確に持たなければ、子どもに浸透していかない。そういった部分を感じますので、指導主事の皆さんは学校へ行って現場を指導するわけですから、そういった意味ではぜひ指導を周知していただくとありがたいと思います。

それと問題は各学校がこの結果を見て、さらにどう改善するかという改善計画は大事だと思います。これは恐らく後ほどの調査の結果も出てきますけれども、二極化しているのです。できる子は本当にできる。基礎基本の部分などというものは、みんなできて当たり前なのです。それができないというのは、課題としてとても深刻です。二極化している部分を、どう各学校が対処するかということは大事なことであり、それがまさに改善計画になろうと思いますから、そういう視点からも、ぜひ個別指導の充実というものを各学校がどのように取り組んでいけるのか、そのあたりもご指導いただくとありがたいと思います。

いずれにせよ、区の実施している授業スタイル、スタンダード、あるいは学習スタイル。こうしたひとつひとつの取り組みが、非常に学校を活性化させているという成果も、小学校あたりがもう出てきました。ですから、いいところをぜひ評価していただいて、課題のある部分は本校で取り組むしかないので、どう改善するかを指導いただくとありがたいと、このように思います。

○教育長 ありがとうございます。

どうですか、スタンダードとか、チャレンジと学力の相関は。

指導室長。

○指導室長 先ほどのグループ学習の時にもちょっとお話をさせていただいていますけれども、子どもたちが主体的に活動を入れているというところが、非常に学習意欲も上昇しているということ。それからその結果というのも、若干ですけれども、過去に比べると上がっているというようなことで、今、こちらのほうでは分析しているところです。具体的にさまざま、例えば教育委員の皆様にも昨年度ごらんいただいた大道中学校、それから本田中学校、この2校の研究の成果というのは、他校の中学校についても非常に大きな話題となっております。そういう部分を、小学校の校長も非常に意識してグループ学習、大道中学校の考えを見習ってというようなことで、子どもたちの主体的な活動というものを取り入れていこうと、今、躍起になっている状況でございます。全体的に子どもたちを主体的に動かすということを、教員自身が授業改善につなげていっていると、こちらのほうでは考えているところでございます。

○教育長 杉浦委員。

○杉浦委員 先ほど言い忘れましたが、9ページの「生活調査結果」のふたつ目、「家で学校の授業の予習をしている」については、全国を上回っています。次の「家で学校の授業の復習をしている」も、葛飾区は上回っている。つまり、きちんと予習復習をしているということは、改善するポイントは、内容ではないかと思います。中学校校長会役員との懇談会の際に、たし

か新小岩中学校では、家庭学習のしおりを出していると同いました。何校かあったと思います。そういったしおりをきちんと出しているところは、家庭学習をした内容がいいのかどうか。せっかく復習も予習もしているというのに、なぜ家庭学習の充実につながらないのか、成績につながらないのか。しおりなどを使った学校が良かったのか、分析の結果をわかっていらっしゃるだけでも教えていただきたいと思います。

○教育長 指導室長。

○指導室長 「学力伸び伸びプラン」の予算を使いまして、家庭学習ノートというものを、さまざまな各中学校が取り入れるようになってまいりました。校長先生から伺うと、やはりそれをやることによって、子どもが、例えば一言日記が出ていたり、それからそこにちょっとした基礎学力を身につけるようなものを乗せている学校もございます。子どもたちの家庭での様子が、日記を読むことによってわかるということ。それからそれを毎日継続しているよさ。要は机に向かっているという、向かわせるという習慣化ですね。そういうところも、すごくいい部分というものができて、「学力伸び伸びプラン」の予算が非常に効果的に使われてきていると感じています。ただ、中学校によって、やはり生徒の実態によって、その問題をどうしていくかということで、学校によって取り上げている問題の内容については、やはり共通しているものではございません。その辺につきましては、これから検討していきたいと考えております。

○教育長 よろしいですか。

そのほかいかがでしょうか。

では私から一つ。5ページの算数Bですが、全国を下回っているとあります。これ間違いないですか。やや下回っているではないでしょうか。算数Bはいいはずですよ。

指導室長。

○指導室長 すみません。やや下回っているが正しいです。

○教育長 では、訂正してください。

ほかに、よろしいですか。では、報告事項等2は終わります。

報告事項3「平成28年度東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」の実施結果についてお願いします。

指導室長。

○指導室長 それでは「平成28年度東京都『児童・生徒の学力向上を図るための調査』の実施結果（速報値）について」ご説明させていただきます。

平成28年7月7日に実施いたしました、「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」（速報値）が公表されました。小学校5年生と中学校2年生の全員を対象として、国語・社会・算数・数学・理科・外国語において、学習指導要領に示されている目標や、内容に基づいた事項と、読み解く力に関する事項について調査を行いました。

それでは資料をごらんください。2ページの5番小学校正答数分布、そして3ページの中学校正答数分布は、葛飾区の小中学校の正答数分布と東京都の正答分布を、人数で25%ごとに、上位からA層、B層、C層、D層としてお示しした資料でございます。層ごとに示しているプラス・マイナスのポイントは、昨年度との比較でございます。さらに、4ページの7東京都25%層ごとの葛飾区との比較は、昨年度と今年度の層ごとの分布について比較した資料でございます。

5ページの「8 分析」についてご説明させていただきます。小学校では、4教科全てのD層が、昨年度より減少し、4教科全てのA層が増加してございます。そちらのほう、2ページの小学校正答数分布をごらんいただくとおわかりになるかと思えます。中学校におきましても、3ページですけれども、英語を除いた4教科のD層が減少し、数学を除いた4教科のA層が増加しております。「チャレンジ検定」の実施及び「葛飾教師の授業スタンダード」の推進により、下位層の児童の正答率が上がり、学力の定着が図られていると考えております。小学校においては、算数を除き、C層が増加し、B層が減少しております。F層及びB層の児童が、それぞれC層、A層に移動したと考えております。次年度からは、各層に応じた指導の充実が必要だと考えております。

中学校英語におきましては、AB層が増加する一方、D層の生徒も増加しております。D層からC層に引き上げることができるよう、チャレンジ検定を活用した継続的な指導を徹底する必要があります。また、葛飾教師の授業スタンダードを一層推進し、コミュニケーション能力の育成を目指して、繰り返し触れることができるよう、さまざまな言語活動を工夫し、基礎基本の定着に取り組んでまいります。小学校では国語を除く3教科、全てのD層が25%以上となっております。チャレンジ検定により、D層が減少したものの、依然として高いです。引き続き基礎基本の徹底ということで、チャレンジ検定を活用した指導を進めてまいります。

9番「今後の取組み」といたしましては、東京都からの正式発表後、問題ごとの分析を行い、チャレンジ検定の問題に反映させるとともに、葛飾教師の授業スタンダードの推進をしてまいります。結果をもとに、各小中学校で分析し、授業改善推進プランをホームページに掲載することで、学校・家庭・地域が一体となって、児童・生徒の学力向上を図ってまいりたいと考えてまいります。

説明は以上です。よろしくお願いたします。

○教育長 ありがとうございます。それでは、ただいまの件について、何かご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

天宮委員。

○天宮委員 当然小学校5年生、学力が全体的に向上しておりますので、この学年が中学校になれば、2年後にはつながりますね。期待できるのではないかと思いますし、またちょうど今、

室長からも説明がありましたとおり、今後の取組みというかたちで、いろいろ分析されているので、ぜひそれも小中ともに反映していただいて、学力の向上に役立てていただけたらと思っておりますのでお願いします。

○**教育長** ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

日高委員。

○**日高委員** 今回のこの結果というのは、これまでの各学校の取組みがよくわかると思います。全てに対して、私はプラスしてきているな、上がってきているなと感じます。数字だけを見ますと、何%何%とよくわからないですね。でも、現実には数値を比べてみると、おおきな違いがあると思います。例えば、一番わかりやすいところでは、小学校5年生の国語です。A層が744人。去年は、582名。これはすごい違いではありませんか。同じように、D層を見てください。昨年度1,037名だったのが、今年度は717名。すごいですね。D層が少なくなった。その割合が実は、このグラフの中に、プラスマイナスで評価されています。こうやって見ていきますと、A、C層がふえています。極端なぐらいな感じです。でも一番指導しにくいのです。指導しにくい状態が学校には現実にあるのです。

つまり、物事を理解しにくいという子どもも結構いるということがわかるのです。このD層の部分です。この子どもたちをどうしてあげるかというのは、先ほども申し上げましたけれども、まさに二極化の部分。できる子どもは、そんなに手助けしなくても、きちんと基礎基本などは乗り越えられるのです。ところがこのDという層は、どうやったらいいかわからない。特に中学校です。どうやって解決していこうかというときに、解決策が見つからない。こういう子どもたちを、吸い上げていかないと、やはりトータルの学力というのは定着しないだろうと思いますので、このあたりを学校と課題を共有して、そして個別の指導体制というものをつくり上げるということが大事ではないかと思います。学校の分析に期待したいと思います。現実には、各教科制でやっている中学校がありますから、中学校については、その教科で、この対策を具体化していただく。このことが大変大事だろうと思います。小学校についても、これはやはり家庭学習もさることながら、学校における指導の中でも、少人数指導等を大いに活用いただいて、その解決を見出していただきたい。工夫が必要だろうと思います。

以上です。

○**教育長** ありがとうございます。

塚本委員。

○**塚本委員** 今も日高委員がくしくもおっしゃったのですが、全く私も同感です。特に小学校の正答率に関しましては、すべてAB層の傾きが、グラフ上でも読み取れます。一方、やはり気になるのは中学校です。やはり英語のB層、C層のグラフで突出していますので、その辺で十分注意をしていかなければいけないのかと思います。やはり個別に対応していかないと、先ほ

ども報告にございました、教育プランあるいはいろいろな授業のスタンダード等がございますけれども、何年かたって熟成するとは思いますが、現実、このD層の子どもたちいるわけですから、その子どもたちへの対策はしっかりしていかないと。特にグローバルイゼーション云々という時代になって、海外派遣等、いろいろな部分を取り組んでございますけれども、国際語であるという英語の教育という部分は、やはり何らかの格好で個別の対応をしながら、ある程度一定レベルまでの水準に子どもたちを引き上げていかないといけないという感想を持ちました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

杉浦委員。

○杉浦委員 各委員からも貴重なご意見がございました。一点だけ、中学校の英語について。

D層が増加したということでございますが、中学から英語の教科が始まるわけです。34.6というのは、大変厳しかったと思います。英語の基礎学力は中学校1年生からしっかりと、英語が嫌いにならないような授業、興味を持つ、おもしろい、楽しい、そういった授業を、中学校の英語教育ではしていただきたいと思います。それから要望ですが、各小学校・中学校で、一部屋空き教室に、英語専用の教室していただきたいのです。映像、ビジュアル、音楽、展示から言葉からすべて会話も英語で行う。そのようにしていただいて、平常時から英語の文化と言葉に興味を持つような子どもたちにしていただき、チャレンジ検定に挑戦し、次にはこういう結果にならないようにしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○教育長 よろしいですか。そのほかいかがでしょうか。

天宮委員。

○天宮委員 A層にいる子どもたちは、中学生の場合、小学生も同じかもしれませんが、ほとんど塾に通っている子が多いわけです。家庭学習の関係もありますけれども、その子たちは、手厚い援助の必要はあまりないように思います。やはりC層・D層、特にD層にある程度重きを置いて、指導するほうがいいのではないかということは感じます。

以上です。

○教育長 いかがですか。

指導室長

○指導室長 確かにA層の子が、全部塾に通い、塾の力でということでは、正直言ってありません。中には塾に行かないくても、物すごく力を発揮している子というのも、中には本当におります。ただし、委員ご指摘のように、やはり、C・D層の子どもたちをどういうふうに、できるだけA・B層に上げていくかというのは、学校にとっても大きな課題と考えています。例えば小学校ですと、お示したグラフでも、たった1人の子をDからCとか、CからBへ、た

った1人上げるだけで、都の平均を超えることができるというふうに分析しています。ですので、委員のご指摘のとおり、下位層の子というのを、できるだけBに近づける。そのためには基礎基本の定着で、チャレンジ検定というものを大いに活用していきたいと。やはりチャレンジ検定を力を入れてやったところというのは、伸びているというふうに感じておりますので、そのようにして考えていきたいと思えます。

○教育長 ありがとうございます。いかがですか。

それでは、報告事項等3を終わります。

それでは、報告事項等4「平成28年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の実施結果」について。

指導室長、お願いします。

○指導室長 それでは「平成28年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の実施結果（速報値）について」、ご説明させていただきます。本調査は小学校1年生から中学校3年生までの、児童・生徒を対象としまして、体力・運動能力調査と、生活・運動習慣等の調査を行っております。また学校に対しまして、各校の取組みに対する質問紙調査も実施しております。今回の速報値が発表されましたのは、体格および体力・運動能力調査に関する調査についてです。資料につきましては2ページには今年度の調査結果・速報値及び今後の対策について、3ページから5ページにかけては、過去5年間の葛飾区の経年変化についてお示したものでございます。

まず全体として、5ページ右下の体力合計点をご覧ください。葛飾区内の経年を見ると、年々上昇して、男女ともに昨年度より伸びていることがおわかりいただけるかと思えます。

2ページにお戻りください。体力・運動能力につきましては、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳びでは、半数以上の学年が東京都の平均を上回りました。ちなみに、2ページの表の一番右端が体力合計点です。注釈にありますように、網掛けは東京都の平均を上回った項目であり、男子は小学校1年生、2年生、3年生、4年生。女子は小学校の全学年。こちらのほうが体力合計点で、都を上回っている状況でございます。

逆に、弱点なのですけれども、持久走および20メートルシャトルラン、50メートル走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ及びハンドボール投げ、こちらが東京都の平均以上の学年が少なく、全身持久力や跳力・投力にまだまだ改善が、まだ課題が残っている状況でございます。

現在「かつしかっ子チャレンジ（体力）」の取組みを推進しておりまして、小学校では全身持久力を高めるために、縄跳びや持久走に取り組んでおります。また跳力や、投力を高めるために、休み時間を有効に活用し、立ち幅跳びや投げる運動をする機会をふやしております。中学校では、保健体育の授業の中で、補強運動として、体幹を鍛える運動を設定し、基礎的な体力を身につけることを目標としております。今後の改善策としましては、児童・生徒が日常的に

運動に取り組めるよう、「かつしかっ子チャレンジ（体力）」の取組みをさらに推進してまいります。この取組みは、特に、課題のある全身持久力・跳力・投力を中心に、休み時間や放課後など、日常的に運動に取り組むことにより、基礎的な体力を身につけることを狙いとしているものでございます。また、教員の実技研修会を通しまして、指導力の向上を図り、運動量を確保した授業改善、こちらのほうも、今後、さらに取り組んでまいりたいと考えております。

説明は以上です。よろしくお願ひいたします。

○**教育長** ただいまの説明について、ご質問、ご意見ありましたらお願いします。

塚本委員。

○**塚本委員** ただいま指導室長から、ご報告があったのですが、体力の合計点、一番右端ではなく、ソフトボール、ハンドボール投げまでの各項目を見ていきますと、網かけの部分が結構あるのだなと思いました。最終的な欄になりますと、若干下回っている。それと気になるのは、2ページ以降では全ての欄で右肩上がりになっています。女子の体重が右肩下がりですが、それ以外ではほとんどのグラフが右肩上がりで、非常にいい成果が出ていると思うのですが、一点、伺いたいのですが、実際にデータとしてエビデンスがあるのかわからないのですが、いわゆる体力の向上と学力との整合性ともうしますか、何か気が付いた点があれば、やはり基礎基本体力というのは生活態度に立脚しますので、反映するのが望ましいと思いますので、何かございましたらちょっとお教えていただきたいと思います。

○**教育長** 指導室長。

○**指導室長** 細かい分析につきましては、実はこれは速報値でございまして、まだ東京都のほうも細かい分析はしていないところでございます。ただ幾つか取り上げたときに、やはり体力が高い学年、小学校5年生と、今回の学力向上の学校と学年を組み合わせると、同じ学年で、やはり体力のあるところというのは、ある程度学力もあると感じます。ただ一概に言えないのは、やはり生活指導がきちんと落ち着いているところというのがやはり条件ではないかと。体力はあるのですけれども、規律が身につけていないと、やはりその部分というのが出てこないクラスもございました。一応そのようなところですので、また詳しい速報値ではなく、正式なデータが出たところで、ご説明できるように分析したいと思います。

○**塚本委員** 非常に知りたかったところですので。ありがとうございました。

○**教育長** そのほかいかがでしょうか。

天宮委員。

○**天宮委員** やはりこの結果についても、二極化している方向ですかね。先日子どもたちが集まる場所でドッジボールを見ていましたが、野球やっている子が中心になってやって、そのほかの男の子は両手でふわーんと投げるといふ、何かおかしい感じだったのです。やはり体力的にもやはり運動する子はしょっちゅう走って、ものを投げたり、蹴ったりして、あとはどう

してもゲームばかりという、余暇の時間をそういう過ごし方になってしまうというパターンになってしまっているのですかね。

○教育長 指導室長。

○指導室長 確かに野球の得意な子というのは、ドッジボールが得意。ただ、ボール投げが得意ではない子というのは、実はサッカーにいていて、体力的にはしっかりついているという一面もございます。ですので、やはり日ごろからやっているスポーツによって、若干違うと思います。

ただ、できる子とできない子で二極化というよりも、今、こちらのほうで考えているのは、全体的に上がってきているかと。例えばそれは個人種目である逆上がりとか、投力、そういったものを一人一人の今までの平均と比べると、データ自体は上がっているということなので、例えば逆上がり・縄跳びの回数などというのは、これなどを見てもみますと、やはり逆上がりできない子だと完全に、そのできる子の人数というのが、若干上がったというところは、状況が低学年の場合は見られております。ですので、全体的には上がっているのではないかと、こちらのほうでは思っているところです。

○教育長 よろしいですか。

天宮委員。

○天宮委員 そんなに分かれているわけではなくて、上がっているわけですね。

○教育長 指導室長。

○指導室長 ただ、いい子はより体力をつけているかなと、考えているところです。

○教育長 よろしいですか。

杉浦委員。

○杉浦委員 体力・体格は葛飾区はよかったとあります。ちょっと気になったことがあります。春、秋に運動会行かせていただきました。学校によって、体格の良いお子さんが多いかなと感じるような学校が、何校かありました。体重が全部平均よりもいいという、その辺はちょっと気になるところです。

次に身長についてです。3ページに、小学校5年生の平成28年が140.21とあります。そのお子さんの前の年、つまり27年は4年生ですが、133.46、全体的に今の5年生はやはり、4年3年ごろから少ない、学年によって、差があるのだなということを感じました。

運動能力の種目というのは決まっているわけですね。これだけ体力も体格もいいわけですから、やろうと思えば、各学校で、この種目を、平常時から体力向上のために取り組んでいけば、数値はよくなるのではないかと。体格は良好ですから、よくなる可能性があると思います。学校側の努力も必要かと思えます。以前、ある学校で、調査の何日か前に練習すると、数値は上がるのですよと、校長先生に伺いました。挑戦するという、やはり学校全体の思いというの

は、私は大事かと思えます。子どもたちの達成感、自信にもつながると思えます。よろしくお願ひいたします。

○教育長 いかがですか。

大里委員。

○大里委員 先ほどの天宮委員のお話を私も考えていたのですけれども、今、スポーツの習い事をしているお子さんが非常に多く、サッカーですとか野球、バスケットボール、水泳などが多いとは思えます。それを考えると、例えばソフトボール投げなどは、できる子とできない子がいるのかなというふうには思っていたのですけれども、この表を見ると、得意な種目とそうでない種目が割と明らかであるということがわかりました。以前新聞に、スポーツの習い事では、技術は向上するけれども、もともとの、基礎体力といえますか、身体づくりなどは向上しないというようなことが書いてありました。やはり日々の生活が大切なのかなと思えます。例えば、昔に比べて重たいものを持つ機会が少なかったり、家庭で体を使うことを必要とすることが少なくなったように感じます。

○教育長 どうですか。いいですか。

そのことはやはり、遊びだと思ふのです。小学生は休み時間に校庭で遊んでいるのだけれども、中学生は遊んでいない。この間校長会で話をしましたが、中学校でも遊んでいますと言うのだけれども、多くの学校は遊んでいない。だから、中学校の女子が、低いというのは、やはり日常的に運動していないのですよ。そういうところをこれから、力を入れていかなければだめだと思っているのです。

いかがですか。ほかに。

日高委員。

○日高委員 業間体操ってありましたね。今でいうと20分休みという。強制的に外に出すということがいいかどうかは別として、要するにその時間は身体をちょっと動かしてこい。そういう指導が、今、どうなっているのですかね。ちょっと見えないというのは、学校によって子どもが外に出て騒いでないですね。静かでいいという言い方もあるけれども、子どもは身体を動かさないということは、もともと体力などというのはできるわけがない。動かすからできるのですよ、身体は。

それからもう一つ。投的、ボールを投げるということが、非常に葛飾区の子どもは弱い。現実にデータでありますね。ただ、学校以外でボールを投げていいところというのは、どこにあるのかと、そう言いたいのです。要するにそういう環境をつくることも、私はもう大事になってきているのではないかと思います。投げる経験が現実がないから、学校で意図的にやらない限り女子は、投げ方がわからないのではないかな。川の土手に行って投げるができる環境にあればできるのですが、住宅地ではできません。区によっては、公園などで、囲いをち

よっとして、その部分だけやってもいいつくり方をしているところもあります。そういう工夫はできないのでしょうか。子どもたちも喜ぶと思うのです。そういう工夫ができないかと感じますが、20分休みの扱いはどうなっていますか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 このごろ、毎回というわけではないのですけれども、例えばスポーツテストは6月です。以前、ゴールデンウィーク明けにすぐやってしまったことがあったのですけれども、やはり今は練習をきちんと経験をさせるというふうになってきて、6月ぐらいにやる学校というのが多くなってきました。そうなりますと、年度初めのときに、校庭でその業間、20分休みですね、2校時と3校時の間に教員がきちんとついて、ボールの投げ方をきちんと指導する。ボールといっても、赤白のお手玉を使って、当たっても痛くないもので、そういうようなことから順序立てて指導している場面が、学校視察を行ったときに見られました。ただそれが、やはり中学校と小学校ですと、小学校の場合は担任が指導していますけれども、やはり中学校の場合は体育科の教員に頼る部分が非常に多くて、その部分の実施というのがやや、やはり少ないかなというふうに感じております。

○教育長 よろしいですか。

そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、報告事項等4を終わります。

報告事項等5「平成28年度葛飾スタンダードに関する意識調査の実施結果について」。

指導室長、お願いします。

○指導室長 それでは「平成28年度葛飾スタンダードに関する意識調査（第1回）の実施結果について」ご報告させていただきます。

「葛飾教師の授業スタンダード」及び「かつしかっ子学習スタイル」の各項目の定着状況につきまして、アンケート調査を実施いたしました。「葛飾教師の授業スタンダード」につきましては、区内小中学校の全教員に4段階評価で調査しました。また、「かつしかっ子学習スタイル」につきましては、区内小中学校の全児童・生徒に二択で調査いたしました。実施日は9月1日木曜から9日金曜日の期間でございます。

結果分析についてご説明させていただきます。まず、「葛飾教師の授業スタンダード」ですけれども、2ページと3ページをごらんください。昨年度に引き続き、小中学校ともに全項目において平均値が3を超えました。特に小学校では、2ページの1番「ねらいを伝える」2番、児童・生徒を褒める、この2項目につきまして、成果が顕著にあらわれているところです。

一方、小中学校の各学校間、さらには中学校の教科間、こちらのほうの取組みの差は、依然として大きいことが課題です。

次に、「かつしかっ子学習スタイル」調査結果でございます。4ページから6ページになりま

す。チャイム着席やあいさつ等の、学習規律に関する項目は8割以上でした。課題としまして、小学校2年生から6年生まで、授業前の準備が7割を下回っていることがございますが、小中学校ともに、授業を成立させる基盤は、おおむね整っていると考えております。

最後に、改善の方向性について、調べたり考えたり、話し合い、学び合う活動を、こちらのほうで推進してまいりたいと思います。教員、児童・生徒双方の結果を総合的に分析して、最も改善すべき点は、授業のあり方であると考えております。その理由を3点申し上げます。

1点目、まず3ページをご覧ください。教員の調査、児童・生徒の主体的な活動を取り入れる、それから、まとめをするの中学校の項目ですけれども、平均値が3.5を下回っております。次に、5ページと6ページ、児童・生徒の調査で、小学校5年、小学校6年、中学校1年の6番の質問項目に、「みとめ合い」というような項目があるのですけれども、そちらのほうは7割未満。さらに中学校2年生及び3年生の質問項目8番のところに、「学び合い」の項目があるのですけれども、こちらのほうは、中2、中3ともに5割未満となっております。加えて、小学校3年生、4年生の7番目の項目に、わからないことを先生に聞いてわかるようにするというものや、小学校から中1までの、宿題やテストを見直してわかるようにする。さらには中2、中3、9番目、10番目の質問項目ですけれども、こちらのほう、やはりテストの見直しとか宿題をやるとかいう項目ですけれども、中学校2年生、3年生についても、そのような項目、全て7割を下回っております。やはり授業中対話的に学んだり、宿題やテスト直しなどの課題に、家庭等で主体的に取り組んだりできる児童・生徒は、まだまだ多くないという現状がございます。そこで、対話的に学ぶ喜びを感じられる授業、それからもっと知りたいという気持ちが高まるような授業となるように、「葛飾教師の授業スタンダード」に基づきまして、調べたり、考えたりしたことを、話し合い、学び合う活動、こちらのほうに重点を置いた授業改善を推進していきたいと、これから指導を助言していきたいと考えております。また今後の予定でございますけれども、ことし12月には第2回の意識調査を実施する予定でございます。

説明は以上です。よろしくお願ひいたします。

○教育長 それではただいまの件について、ご意見、ご質問ありましたらお願いします。

塚本委員。

○塚本委員 質問ではなくて、要望というか意見を申し上げさせていただきます。今、指導室長がおっしゃった部分で、小学校平均では、「ねらいを伝えていますか」、あるいは4番の「児童を褒めていますか」という部分で、ポイントが上がっているというところは評価できる点であろうと思います。平均という部分でも、3.8、3.5、3.51、3.73と、それなりの平均が出ていますが、やはり中学になって、指導室長のおっしゃった部分で、若干乖離現象が見られる部分はちょっと気になった部分です。そういった意味では、冒頭指導室長がおっしゃった、今後の取組み、3番目の改善の方向性の中で、後段に書かれた部分をぜひ充実させていただいて、特

に12月にまた2回目を実施されるという部分で、すぐにそこで結論が出るかどうかはわかりませんが、十分間に合う部分であれば、ぜひ注入をしていただくことを希望いたします。

以上です。

○**教育長** ありがとうございます。よろしいですか。そのほかいかがでしょうか。

杉浦委員。

○**杉浦委員** 9月1日から9日に調査したということですね。小学生の家庭学習・宿題・テスト・見直しをやり切っていますかという項目は、1年から4年まではしっかりやっているということなのですが、5年、6年、中学生になると割合が急激に低くなっています。

授業前の学習用具を準備しているという項目は、以前の調査でとてもよかったと記憶しております。夏休み直後の調査の取組みで、何となく、何か意識的にちょっと緩んでいるのかなと思いもしました。

先ほど室長のほうからお話がありました、5年生の「自分から進んで発言をし、友だちの発言をみとめ合い、しんげんに聞いていますか」、約43%の人が聞いていないのですね。この5年生「自分から発言をし、人が話していることをきちんと聞く」という姿勢を、しっかり指導していただければ、最高学年、中学につながるのではないかということを感じました。

○**教育長** ありがとうございます。ほかによろしいですか。

それでは、報告事項等5を終わります。

報告事項等6「平成28年度中学校連合陸上競技大会の実施結果について」、指導室長をお願いします。

○**指導室長** それでは「平成28年度中学校連合陸上競技大会の実施結果について」ご説明、ご報告させていただきます。

9月27日に中学校連合陸上競技大会が、総合スポーツセンター陸上競技場で開催されました。全中学校24校。男子420名、女子342名、合計762名の生徒が参加いたしました。実施結果につきましては資料のとおりでございます。今年度も全ての種目を無事終えることができました。今年度、新たに6位に入賞した学校ですけれども、男子では奥戸中、葛美中、青葉中の3校。女子では桜道中、四ツ木中の2校になります。男女ともに1位は立石中で、総合優勝となりました。また、同点の場合は入賞者数の多い学校が上位としております。各種目で接戦が見られ、六つの大会新記録が出ました。競技中・練習中の大きなけがはございませんでした。天候にも恵まれまして、生徒たちが自分の力を十分に発揮してくれたものと考えております。また開会式、閉会式で、競技中のマナーもよく、充実した大会になったのではないかと考えております。ご報告は以上です。よろしく願いいたします。

○**教育長** それでは、ただいま件について、何かありましたらお願いします。よろしいですか。

では特にないようですので、報告事項等6を終わります。

報告事項等7「平成28年度葛飾区読書感想文コンクールの結果について」。

指導室長。

○指導室長 「平成28年度葛飾区読書感想文コンクールの結果について」ご報告させていただきます。平成17年度より実施しました葛飾区読書感想文コンクールですが、ことしは小学校1万6,830点、中学校5,733点の応募がございました。その中から、各学校で第一次審査を行い、小学校291点、中学校70点が学校代表作品として推薦され、図書館部の部員による選定委員会で第二次審査を行い、小学校18点、中学校10点を入賞といたしました。

あわせてすぐれた作品を「青少年読書感想文全国コンクール」東京都地方審査へ推薦いたしました。各部門に最優秀賞、優秀賞、佳作をお手元の一覧表のとおり決定いたしました。この28名につきましては、広報かつしかの12月15日号に名前を掲載する予定でございます。また、最優秀賞、優秀賞の受賞者には、11月15日火曜日に表彰式を行う予定でございます。

報告は以上です。よろしくお願いたします。

○教育長 ありがとうございます。それでは、ただいまの件について、何かご質問、ご意見ありましたらお願いします。よろしいですか。

大里委員。

○大里委員 先ほど、杉浦委員も、別の報告事項のところでおっしゃったのですけれども、朝読書に力を入れている学校もありますし、ぜひ読書と作文、大切だと思います。先ほども言いましたけれども、やはり国語は大切だと思いますので、力を入れてほしいと思います。また、図書館についても、先日の定例会のときにも図書館のホームページの機能の追加の話もありましたので、どんどん図書館を利用し、読書の習慣が広がってほしいと思います。それから、受賞作品を、ほかの生徒さんが読む機会があるといいと思います。ほかの人の文章を読むことは勉強になります。確か、中学生の「税についての作文」の受賞作は冊子になって、生徒みんなに配られて、子どもが持って帰ってくるのですけれども、実際のところ自分で読んでいる生徒はどのぐらいいるかというところはわかりません。なかなか親が読みなさいと言っても、読まないのです。ある程度学校で、授業で強制的に取り上げるというようなことも、考えていただけたらと思います。

○教育長 指導室長。

○指導室長 こちらのほうの文集につきましては、年度末に文集にしているのですけれども、全部の児童・生徒に配っているわけではないのです。ですから、学校で何部か学校図書館のほうで見れるような形、もしくはあとは、済みません、ちょっと、今、情報が確かではないのですけれども、とにかく1年生から6年生までとか、全児童・生徒でなかったかと記憶しています。できる限り、やはり今まで優秀な作品に触れることというのも、子どもたちの意欲とか、それから書き方をどうしたらいいのかという学びにつながるといいますので、その部分につき

ましては、より推進していきたいと考えております。

○**教育長** ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

塚本委員。

○**塚本委員** 先ほどの報告にございました中学校の連合陸上競技大会の結果もそうですし、読書感想文のコンクール。やはりこれに入賞された子どもたちの自己肯定感、自己啓発が非常に役立つ部分がありますので、大里委員がおっしゃったように、やはり自分が読書感想文を書いたこと、それがやはり国語力というベースの中で、人に読書感を訴えるのだということ、やはりそういった意味では子どもたちにいい方向で反映させていただく機会をぜひ求めていただきたいと思っております。

以上です。

○**教育長** ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは報告事項等7を終わります。

報告事項等8「かつしかスポーツフェスティバル2016実施結果について」、お願いします。

生涯スポーツ課長。

○**生涯スポーツ課長** それでは報告事項等8、かつしかスポーツフェスティバル2016の実施報告についてご説明させていただきます。

実施日時・会場につきましては記載のとおり平成28年10月10日月曜日体育の日、午前9時30分から、奥戸総合スポーツセンター陸上競技場をメイン会場とし、区内各スポーツ施設で開催いたしました。教育長、各教育委員の皆様を初め、多くの来賓の方々のご出席をいただきまして、ありがとうございました。

3、天候につきましては、曇りで、若干肌寒い天候の中の実施となりました。

続きまして、参加人数でございますが、延べではございますが、3万6,452人で、昨年度と比較いたしますと、100人弱減少となっております。昨年度につきましては、9月の関東東北豪雨の影響で、江戸川河川敷のスポーツ施設を使用するプログラムが中止となりましたが、今年度につきましては、前日までの雨の影響が若干ありましたが、イベント及び無料開放を実施することができました。

一方、昨年度は東金町運動場多目的広場で実施いたしました、プチバルセロナスクールサッカークリニックにつきましては、多目的広場の人工芝生化工事完了検査が終了していなかったため、今年度は中止とさせていただきます。

陸上競技場をメイン会場とし、各会場では誰もが気軽に参加できる体験コーナーや、ウォークラリーでは、多くの区民にスポーツの楽しさを味わっていただけるフードコートでも、多くのにぎわいが見られました。

参加人数の内訳につきましては、記載のとおりでございます。また、裏面に各ブースごとの

参加人数を記載させていただきました。

5、地区別対抗競技結果につきましては、総合優勝がお花茶屋地区。準優勝が新宿地区。第3位が高砂地区でございました。また、救護および迷子の件数は、救護が14件、迷子が5件、合計19件でした。救護のうち、1件の救急搬送につきましては、野球教室でのバッティング練習中に、小フライを捕球しようとしていたお子さんに、別のお子さんが打った打球が目に直撃したため、救急搬送いたしました。検査の結果、視力への影響はないこと、また通院の必要もないことが確認でき、無事と報告を受けております。

7のフードコートの出店では、奥戸福祉館、青戸しょうぶ、かがやけ共同作業所を初めとする福祉関係、9団体、東京聖栄大学、葛飾商店街連合会推薦組合、公募店舗を含め、全15店舗の出店がございました。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○教育長 それではただいまの件について、ご意見、ご質問ありましたらお願いします。

天宮委員。

○天宮委員 参加させていただきましたけれども、当日ちょうどいい天気でした。晴れもせず、雨も降らずという、運動するにはとてもよかったですし、またフードコートなども寄ってみますと、かなり盛況でした。本当に大成功と言っていいと思います。お疲れさまでした。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

塚本委員。

○塚本委員 いわゆる生涯スポーツという部分で、やはり大事なイベントであろうと思います。もちろん公立学校、学校現場の活動もさることながら、生涯を通して、やはりスポーツにいそむ機会というのは、すごく大事だと思いますから、それぞれ担当の部署の方は大変だと思うのですが、区民へサービス、特にオリンピック・パラリンピックを控えて、世相的な風潮として非常に士気向上が上がっていますので、区民サービスの一環としては大事な事業であろうと思いました。

感想だけです。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは特にないようなので、報告事項等8を終わります。

これで報告事項等については終了いたしますが、ここで各委員から何かご意見とかありましたらお願いします。

では、特にないようですので、続いて「その他」の事項にいきます。

指導室長。

○指導室長 教育管理職人事異動がございましたのでご報告させていただきます。宝木塚小学校加賀美 学校長につきましては、病気休職に伴いまして、10月16日付で上小松小学校、小

高和子校長が昇任し、宝木塚小学校長に着任いたしました。また、上小松小学校副校長には、墨田区立吾嬭立花中学校半村拓哉主幹教諭が昇任転入し、着任いたしました。半村副校長におきましては、中学校の技術科の教員として採用されまして、本区綾瀬中学校を初任校として、江戸川区、墨田区の中学校を歴任し、同日で副校長に昇任したところでございます。

ご報告は以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○教育長 よろしいですか。

続きまして、「その他」の事項に入ります。庶務課長、一括して説明をお願いいたします。

○庶務課長 それでは「その他」3件説明させていただきます。まず1の資料配付ですが、1件でございます。11月の行事予定表、A4の両面で配らせていただいております。

続きまして、2の出席依頼でございますが、こちらは本日3件です。まず初めに、2月4日かつしかシンフォニーヒルズで実施されます、中学校フレッシュバンドフェスティバル、こちらについては塚本委員に。2月14日火曜日、総合教育センターで実施されます葛飾区教育委員会教育実践校等報告会につきましては日高委員に。2月18日土曜日、東京理科大学大ホール、科学教育センター科学教室の閉室式につきましては、大里委員にそれぞれご出席をお願いいたします。

最後、3に次回以降の教育委員会予定を掲載してございます。あわせてごらんおきください。

説明は以上でございます。

○教育長 よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして平成28年教育委員会第9回臨時会を閉会といたします。

ありがとうございました。

閉会時刻 11時35分